

## みらいの県土研究会地域部会（沼津地域）

### 議 事 要 旨

日 時 : 令和6年12月5日(木) 14:00~15:30

場 所 : 静岡県東部総合庁舎 別館2階 第1会議室

出席者 : 別紙出席者名簿のとおり

議事次第に基づき技術調査課から説明を行った。

発言者からの主な意見は以下の通り。

#### 【情報共有】

- 1 静岡県における建設発生土リサイクルへの取組
- 2 建設発生土の適正処理に向けて
- 3 関係団体、各事業者の業務紹介

※建設発生土に関して個別に意見等があったものを抜粋

#### ○三島建設業協会

- ・ 公共事業の考え方を民間工事にも提供できるようにお願いしたい。
- ・ 処理施設については、設計上でしっかり指定して積算をお願いしたい。
- ・ 県の運用を市町の実務担当者まで浸透するようにお願いしたい。

#### ○沼津建設業協会

- ・ ストックヤードや処分場が限られているため、民間でも困っている。
- ・ 事業者としても土の処分先が決まらないと工事着手が出来ない。

#### ○砕石業協同組合

- ・ 沼津土木管内は、県内で砕石工場が多くある地域であるが、かつてと比べると資源が減少して、リサイクルに取り組む事業者も見られる。
- ・ 採石場は、広大な敷地と重機等も有し、高いポテンシャルがあると思われる。
- ・ なお、新材の供給体制も維持しないと、道路工事など公共事業も成立しなくなるため、需要と供給が継続できる体制確保にご配慮頂きたい。

#### ○木村土木

- ・ 獅子浜営業所の約70,000㎡の敷地では、年間約100,000m<sup>3</sup>の建設発生土のリサイクルを行える施設となっている。
- ・ 令和5年度は約60,000m<sup>3</sup>の建設発生土を受けて、約30,000m<sup>3</sup>の土質改良土の販売実績があり、リサイクル率は51.7%であった。

- ・今年度は32,710m<sup>3</sup>の土質改良を行ったが、そのうち、製品として販売できたのは2,510m<sup>3</sup>、リサイクル率は7.6%であった。

#### 4 関係団体、各事業者の業務紹介

※建設発生土に関して個別に意見等があったものを抜粋

##### ○沼津土木事務所

- ・国道414号の静浦バイパスの2期工事で約150,000m<sup>3</sup>の発生土が出る予定があり、情報提供しながら有効利用を検討したい。
- ・三島富士線の沼津市西側で地盤改良に圧密用に盛土を行うが、最終的に除去するため、その発生土が出る予定。
- ・仙石原新田線について、山を切る工事であるが、良質土でない発生土が多く出る予定。
- ・沼川の新放水路整備について、約35,000~40,000m<sup>3</sup>のそのまま他工事で利用できない発生土が出る予定。

##### ○東部農林事務所（農地）

- ・発生土が関係する事業は、大規模な圃場整備であるが、令和8年度以降では、三島などで計画を予定している。農業者個人が関係する事業であるため、事業費抑制を相談しながら進めていきたい。

##### ○東部農林事務所（森林）

- ・林道工事、治山の堰堤工事を行っているが、全体で年間約5,000m<sup>3</sup>の発生土が出るが、処分場への搬出はほとんどせずに個人の山林に同意を得て、置かしてもらっている状況。ただ、熱海の一件以降、受け入れに不安を持つ個人の方が増えている。

##### ○沼津市

- ・岡宮北区画整理事業の発生土が関東ロームだったので、最終処分せずに、令和5年度より東部農林の担当者と調整して、圃場整備の現場へ搬出している。
- ・搬出先については、御殿場、小山、伊豆の国等の受入れ地を探していただき、畑（田）の土として使用できるかの調査を行い、必要に応じ土壌改良も行っている。
- ・山を切って造成工事を実施している新中間処理施設整備事業の発生土は、熱海土木、沼津土木、沼津市の他工事と調整して、処分する土砂が出ないように努めている。
- ・新貨物駅周辺の道路整備工事の発生土は、JRが施行する新貨物駅地の敷地造成に流用する予定としているが、それでもかなりの処分土が出るため、これからの調整が必要。

### ○三島市

- ・ 大規模に土が発生する工事は無く、昨年度の状況として、全体で約 10,000m<sup>3</sup> の発生土があり、そのうち 3/4 は上下水道の工事からである。また、今年度も昨年度と同様の発生土量を見込んでいる。
- ・ 昨年度より、市工事の S S M への登録を開始した。昨年度はマッチングできた工事は無かったが、今年度は市の工事間で 3 件マッチングすることができた。
- ・ 市工事の発生土の処理量は約 6,000m<sup>3</sup> で、ほとんどが木村土木へ搬出しているため、統計上は再利用という取扱いとなっているが、実情が再利用出来ていない可能性がある。

### ○御殿場市

- ・ 市では、大きな切り盛りが発生する工事は無い。

### ○裾野市

- ・ 道路工事、下水道工事の発生土は、市内での流用が出来ないため、処分場に搬出している。また、処分場が近隣にないため、富士市、富士宮市、伊豆方面等に搬出しているが、運搬距離に課題がある。

### ○伊豆市

- ・ 新中学校、日向公園の整備にあたっては、切り盛りがゼロになるように整備している。また、道路関係工事の発生土は市内にある 4 箇所の処分場に搬出している。

### ○伊豆の国市

- ・ 市工事の下半期に見込まれる発生土は 17 事業、2,635m<sup>3</sup> で、そのうち、2/3 は木村土木と伊豆市内の処理施設に搬出する予定。今後、SSM 等による有効利用に努めたい。

### ○函南町

- ・ 年度内に町内で工事調整会議を何度か開催し、発生土の有効利用に努めている。

### ○清水町

- ・ 下水道工事から発生土が多く出るが、処分場に搬出している。

### ○長泉町

- ・ SSM や土質改良土の利用は進んでいない状況で、木村土木へ搬出している。
- ・ 来年度以降に複数年で 18,000m<sup>3</sup> の第 4 種の発生土が出る予定で、対応について検討している。

## ○小山町

- ・ 町工事の発生土は、沼津土木、東部農林と工事間調整を行っているが、来年度は約 2,500m<sup>3</sup> の発生土の処分が必要である。

## 【意見交換】

- 1 沼津土木事務所管内の建設発生土の状況
- 2 意見交換

### (1) 発生土全般について

#### ○木村土木

- ・ 土質改良土によるリサイクル率が低下した理由は、受け入れた土砂は全てリサイクルが可能であるが、購入者がいなかっただけである。

#### ○沼津土木事務所

- ・ 沼川の工事で土質改良土を使用しているが、田子の浦港の浚渫土とスコリアを混ぜた改良土の方が運搬距離が短く、こちらを利用したことから今年度は木村土木の改良土の利用が減少した。
- ・ 管内の最終処分の割合は低いが、発生土の全体量が多いため、処分する土量が多く、最終処分場やストックヤードがまだまだ足りていないと感じている。

#### ○木村土木

- ・ 沼津土木の築堤工事で発生土の改良を行っているようだが、発生土の有効利用は、大いにやるべきで賛成である。
- ・ わざわざ天然のものを使用するなら、土質改良を使ってもらいたい。
- ・ ただ、当社で受入れている発生土は工事間利用が出来ない土である。
- ・ リサイクル出来ない土砂は県外へ船で運んで処理しているが、突然受入できなくなるリスクを抱えていることを理解してもらいたい。
- ・ 国交省工事では全く改良土を使用してもらえていない。
- ・ 三島市の発生土は、沖積層、関東ロームなど非常に悪い土質なので、改良しないと絶対使えない。
- ・ 本日は、土質改良土の利用率を上げることに理解を頂きたい。

## ○砕石業協同組合

- ・ 県発注工事の令和4年度の有効利用率が96%で非常に高いがなぜか。
- ・ また、行政から見ると、建設発生土等が事業者等に渡ったことで、有効利用とみなされているようだが、先ほどの木村土木さんの話のように、リサイクル施設で受け入れても、結果的に行き先がないものは、本当の有効利用ではないと思われる。有効利用についてどのように考えるか。

## ○技術調査課

- ・ この年は、東部農林の東富士演習場内の工事が理由で、発生土量が多くなっているが、地区内で切盛していることから有効利用率も高くなっている。
- ・ 今回の発生土の処理状況は、コブリスの集計に基づいて算出しているため、中間処理施設のその後については反映されていない。

## ○沼津土木事務所

- ・ 有効利用率は高いが、実際は約100,000m<sup>3</sup>の発生土を最終処分している。
- ・ 発生土量で比較すると、他の土木事務所より多いため、検討をしていかないといけない。

## ○三島市

- ・ 発生土量を集計するのにあたり、コブリスのデータを使用しているとのことだが、コブリスの入力が正しくないため、実情とあっていないと思われる。
- ・ 三島市のようにリサイクル施設に搬出しても、再利用されなければ、実際の有効利用率はかなり低い数字になってしまう。
- ・ 市工事の実際の発生土は、3種、4種が多く、土質改良しないと利用できない状況であることが精査してわかった。
- ・ 三島市は上下水道の工事が多いので、良質土でないと埋戻しに使用できない基準もあり、掘削した土がそのまま利用できない。

## (2) SSMについて

### ○三島市

- ・ 三島市では、SSMへの登録を進めているが、他の市町での登録が進んでいないため、市町連携での調整が取れていない実態がある。他の市町に対して、SSMへの工事情報の登録を行うように働き掛けを行って頂きたい。
- ・ 三島市では全部の工事をSSMに登録する取り組みを行うことで、庁内で情報の共有化を図り、土量は100m<sup>3</sup>位であるが、マッチングすることができた。
- ・ SSMのシステムが優秀で、マッチング出来そうな工事があると、連絡が入るので、その連絡を受けて対応できるので良い。

### ○沼津市

- ・ 沼津市では、SSMに登録するということが、まだあまり市内で認知されていない。昨年度、道路工事で1件マッチングできたが、それ以外の実績はない。
- ・ 上下水道工事は、即日復旧となる上、地下水が高く、そのまま再利用できず、仮置きなども出来ない現場が多い。

## (3) スtockヤード整備

### ○沼津市

- ・ 仮置きして改良できる場所があると有効利用できると思う。
- ・ 沼津市単独でのStockヤードの設置は、難しいため広域的に整備することが望ましい。また、市町単位での運営管理は難しいので、県が主導で設置していただくのが望ましいと考える。ただ、土地を探すことは、一緒に進めていなければと思っている。

### ○沼津土木事務所

- ・ 各市町から広域的なStockヤードを整備して欲しい要望は多くあるが、土を出す市町に対し、土を使う市町が異なり、そこで使って下さいでは成立しない。「処分場」ではなく「Stockヤード」であり、あくまでも使用見込みがある場合しか成立しない。
- ・ 広域になった場合、搬入するときどれだけ負担するとか、色々考えることも多くなるので、まずは各市町単位で設置を考えてもらう方が良いと考える。
- ・ 沼津土木では、各班単位で非公式のStockヤード的な仮置き場を県有地や借地を使用して展開している。その取り組みにより、令和4年度の沼津土木の有効利用率が、非常に上がっている。まずは発注する職員の意識改革も大事である。

## (4) その他

### ○沼津建設業協会

- ・ 発生土処理単価が高騰しているが、発注者側で最終処分を減らす発注を考えていてもらいたい。

### ○三島建設業協会

- ・ 盛土工事をするのを避けているような傾向を感じる。市町単位内で帳尻を合わせるような発注をしないと最終処分は無くならないのではないかと。
- ・ 小さい業者もいる中で、各市町単位しか付き合いがない業者へも課題の共有をお願いしたい。

# 第1回みらいの県土研究会地域部会

日時 令和6年12月5日(木)14時～

場所 東部総合庁舎別館2階第1会議室

## 次 第

### 1 開 会

○会の主旨説明

### 2 情報共有

(1) 静岡県の方針と取り組み内容(技術調査課)

(2) 建設発生土の適正処理に向けて(技術調査課)

(3) 関係団体、各事業者の業務紹介

(4) 県機関・市町の主要事業の紹介

### 3 意見交換

(1) 静岡県内の建設発生土の状況(技術調査課)

(2) 意見交換

(3) まとめ

### 4 今後の予定(技術調査課)・閉会

## みらいの県土研究会 地域部会 出席者名簿

日時： 令和6年12月5日（木） 14時～

場所： 東部総合庁舎別館2階 第1会議室

### 地域名：沼津

機関名	所属名	職名	氏名	備考
<b>【静岡県（土木）】</b>				
沼津土木事務所	企画検査課	班長	藤井 洋行	
"	"	統括主査	土屋 哲志	
熱海土木事務所	企画検査課	班長	木原 寛	隣接事務所
富士土木事務所	企画検査課	班長	夏目 貴英	隣接事務所
<b>【静岡県（農林）】</b>				
東部農林事務所	農村計画課	班長	大里 彩子	農地
"	森林経営課	技師	斎藤 太輝	森林
<b>【市町】</b>				
沼津市	建設デザイン政策課	主査	鈴木 雄介	
"	道路建設課	技師	千葉 恒大	
"	"	技術員	秋山 航平	
三島市	都市建設課	課長補佐	松永 章宏	
"	土木課	課長補佐	鈴木 博明	
"	財政課検査室	技術主査	奥村 修一	
御殿場市	道路河川課	副主任	嵐田 貴大	
裾野市	建設課	係長	土屋 知一	
伊豆市	建設課	主幹	星谷 延宏	
伊豆の国市	建設課	係長	山下 喜将	
函南町	建設課	係長	三田 秋鹿	
清水町	建設課	主幹	向笠 本宏	
長泉町	工事管理課	副主幹	石井 智大	
小山町	建設課	副主任	千葉 加奈子	
<b>【県建設業協会】</b>				
三島建設業協会		副会長	土屋 龍太郎	
沼津建設業協会		会長	加藤 修一	
"		災害対策委員長	臼井 康晴	
<b>【県砕石業協同組合】</b>				
立岩石材興業株式会社			渡邊 洋生	
"			鈴木 俊雄	
(二葉建設株式会社		課長	溝添 一郎	)
静岡県砕石業協同組合		専務理事	桑原 裕明	組合事務局
<b>【建設発生土リサイクル業者】</b>				
木村土木株式会社		代表取締役	木村 信太郎	
"		顧問	梅原 正	
<b>【処分場業者】</b>				
二葉建設株式会社		課長	溝添 一郎	再掲
<b>【技術調査課】</b>				
県交通基盤部	技術調査課	主幹兼統括主査	稲毛 純一	
"	"	主査	長谷川 雄一	
"	"	主査	佐藤 加奈子	